

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

オンライン会議（ビデオ/Web/音声）システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 25 No.8 2023年4月30日

製品・サービス動向-国内

■ブイキューブ：クラウド型電話サービス

「Zoom Phone」の販売開始

(4月24日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、Zoom Video Communications 社 (米国・カリフォルニア州) が提供する音声クラウド型サービス「Zoom Phone」を4月24日より販売開始する。

Zoom Phone

Zoom Phone (ブイキューブ)

今回、提供を開始するのは既存の電話番号 (OABJ 番号) を活用し、固定電話や Zoom のアプリケーションをインストールしている PC・スマートフォンなどから、自宅や外出先からでも代表電話や内線の応答ができる Zoom Phone (プレミスピア接続) と、新規で電話番号で利用できる Zoom Phone (Native) となる。

提供開始する Zoom Phone を利用すると代表や内線にかかってきた電話を固定電話や Zoom のアプリケーションをインストールしている PC・スマートフォンなどで Zoom ミーティングと同じ高い通話品質で受電、対応することが可能になる。これにより、電話対応を自宅や外出先からでも対応可能になるとともに、オフィスからでも受けることが可能になる。

また、Zoom Phone (Native) の場合、企業内に電話交換機などの新たな設備の設置が不要なため、電話システムの導入や保守運用の工数を大きく低減し、コストを抑えて導入ができる。加えて、既存で利用され

ている電話番号の活用だけでなく、新規の電話番号の登録も可能となっている。

ブイキューブでは2019年から Zoom の販売パートナーとしてサービスを展開し、Zoomtopia Partner Connect 2022 では「パートナーマーケティングデジタル賞」を受賞するなど、国内での事業展開をサポートしている。また、24時間365日のお客さまサポートを行い、これまで2,500社以上の企業の導入を支援してきた。これら事業展開を通じて培ったノウハウを活かし、Zoom Phone と連携する Zoom サービスを全てワンストップで提供、導入サポートをしている。

今後もお客さまのコミュニケーション DX 実現に向けてさまざまな映像コミュニケーションサービスを提供していくとしている。

■RSUPPORT：ChatGPT が Web 会議内容の議事録を自動要約し、議事録作成の負担を軽減

(PRTIMES：4月21日)

RSUPPORT 株式会社 (<https://www.rsupport.com/ja-jp/>) (東京都港区) が運営する Web 会議ツール「RemoteMeeting」は、「ChatGPT」を利用し議事録の自動要約を作成することができる新機能「AI サマリ」を4月21日のアップデートより提供開始する。

AI サマリ機能を利用すると、AI 議事録を通じてテキスト化された会議中の発言を簡単に要約することができ、要約した内容は議事録として PDF でダウン

ロードすることもできる。

RemoteMeeting はかねてより会議中の発言内容をテキスト化する AI 議事録機能を提供してきたが、今回、AI 議事録をさらに ChatGPT にて自動要約することにより、より簡潔明瞭な文章で議事録を作成することが可能になる。

本機能利用による追加料金はなく、通常プランのデフォルト機能として利用できるようになっている。

RemoteMeeting は、インストール不要、Web ブラウザ経由で簡単に会議を開始できる Web 会議サービス。ラウンジといったオリジナル仮想会議室からのワンクリックでの会議参加や AI を利用した他にはない便利機能で、初心者でも簡単に使いこなせる点が評判となっているという。

画面・ドキュメントの共有機能はもちろん、画面録画、AI による議事録作成機能を搭載した共同作業ツールとして出勤、長距離移動をせずにオンライン上での共同作業が可能で、テレワーク環境をすぐにつくることができるという。

■ イトーキ：マイクロソフト社の「Signature Teams Rooms」体験をさまざまな会議室で実現する「Panora」を開発

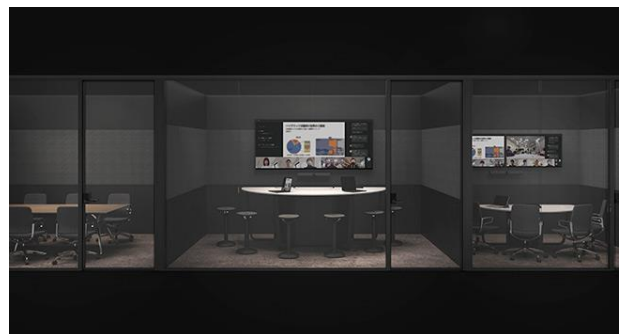
(4月18日)

株式会社イトーキ (<https://www.itoki.jp/>) (東京都中央区) は、マイクロソフト社が提供する、すべての参加者がより自然にストレスなく高臨場感を体験できる会議室ソリューション「Signature Microsoft Teams Rooms」を実現する Web 会議テーブル「Panora (パノラ)」を開発したことを発表した。2023 年夏頃の発売を目指す。

ハイブリットワークが主流となった現在、会議室も従来の対面会議から Web 会議を行う場へと変化し、新しいコミュニケーションを実現する空間機能が求められているという。一方で、ハイブリット環境下では、

リモート側にとってオフィス側で誰が話しているかわかりづらいことや、声が聞き取りづらいなどの課題があり、結果として双方の温度差や一体感不足が生じているのが実情という。

このような職場環境の変化を受け、同社では、マイクロソフト社の Signature Microsoft Teams Rooms のガイドラインに基づき、同社の人間工学的な知見やスマートオフィス商品開発のノウハウを掛け合わせることで、オンラインとリアルをシームレスにつなぎ、誰もが平等で、より快適かつ創造的なハイブリットミーティングエクスペリエンスを可能にする会議室を実現するという。



Signature Microsoft Teams Rooms イメージ

(イトーキ)

Signature Microsoft Teams Rooms は、「誰一人取り残さない」会議をモットーに、すべての参加者のことを考えたインクルーシブな会議エクスペリエンスを実現すべく、考え抜いて設計された会議室ソリューション。ディスプレイ、カメラ、オーディオデバイス、テーブル等の機器や家具を配置し、会議室内の参加者とリモート参加者が互いに向き合っており取り取りできる環境を実現する。

半円状のテーブルと Signature Teams Rooms の推奨レイアウト「Front row」の融合により、会議室にいる参加者の目の高さに合わせてリモート参加者が表示され、対面のような臨場感を生み出す。

Panora のテーブルを使用することで広角カメラの視野角に参加者全員が入り、マイクと話者の距離を一

定に保つことで、適切な声の音量を保つことが可能となっている。リモート側は会議室側との一体感を感じられ、会議室側はリモート側を常に意識できる設計となっているという。

Panora は、小規模から中規模までさまざまな広さの会議室で使える 6 名用 (High/Low) と 4 名用 (High/Low) を用意している。脳の働きを活性化し創造的で効率的な会議が進むとされるスタンディング式と従来型の着座式から選べる。加えて、システム機材やユーザー操作端末・接続端子を収納し必要なものだけを手元に置くことができるようになっている。

■イトーキ：オープンスペースでも周囲を気にせず Web 会議ができる、ボックス型ソファ「sound sofa」を開発、座ると聞こえる新しい体験を実現

(4月20日)

株式会社イトーキ (<https://www.itoki.jp/>) (東京都中央区) は、オープンスペースでスピーカーオンを気にせず気軽に Web 会議ができるボックス型ソファ「sound sofa (サウンドソファ)」を開発したと発表。2023 年秋頃の発売を目指しさらなる開発を進めている。



sound sofa (イトーキ)

ハイブリットワークが主流となる中、オフィス内での Web 会議の頻度が高まり、会議室だけでなくオープンスペースでも日常的に Web 会議が行われるようになった一方で、オープンスペースでの Web 会議は、

周囲への音漏れや雑音の混入など「音」に関する問題が挙げられている。



背面に設置した指向性スピーカー (イトーキ)

イトーキでは、これらの音問題を解決するスマートオフィス製品 sound furniture series の開発を進めてきた。2022 年秋には第一弾として、オープンスペースでも周囲を気にせず Web 会議ができるミーティングテーブル「sound parasol」を発売。今回は第二弾として、ボックス型ソファ「sound sofa」を開発。AV/ICT 機器とオフィス家具を組み合わせることで、オープンスペースにおける快適で創造的な Web 会議を実現するという。



組み合わせイメージ (イトーキ)

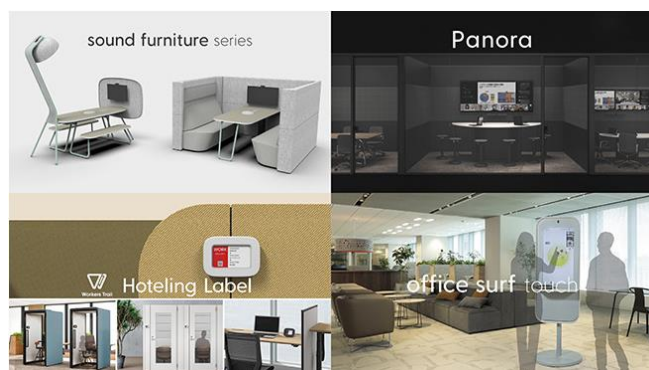
Sound sofa は、オープンスペースでの Web 会議において、使う人と周囲の人双方に快適な新しいボックス型ソファ。背面に設置した指向性スピーカーにより、Web 会議のスピーカー音を最適な範囲にコントロールし、周囲への音漏れを抑えながら、座っている人にはクリアに聞こえる。

吸音性能の高い素材・構造で囲われた空間で、リモートの参加者にオフィス側のノイズ音が伝わりにく

くなっている。また、テーブル中央に設置した指向性マイクでオフィス側の音声最適で大きさが届き、リモート側にとっても快適な Web 会議をオープンスペースで行うことが可能となっている。

sound furniture series として、sound parasol と sound sofa を合わせて利用することで、音声に配慮した多様なオープンミーティングスペースを形成できる。

イトーキでは、Tech x Design のノウハウを活かし、ABW やハイブリットによる新しい働き方の使い勝手をよくする製品群を拡充していくという。sound furniture series に加え、シームレスなつながりを生むハイブリット会議テーブル「Panora」、オフィスからワンタッチでバーチャルでもリアルでも繋がりたい相手と簡単に繋がる「office surf touch」、ABW やフリーアドレスにおける集中デスクやブース予約を簡単にし、予約状況もその場で確認できる「Workers Trail Hoteling Label」など、新商品を順次発売する予定という。



順次発売予定スマートオフィス製品群（イトーキ）

ビジネス動向-国内

■Figma Japan：事業拡大に伴いオフィスを移転、日本オフィス開設から1年でメンバーは総勢22名にまで増員

（PRTIMES：4月25日）

Figma Inc.（米国・カリフォルニア州）の日本法人

である Figma Japan 株式会社（<https://www.figma.com/ja/>）（東京都千代田区）は、事業拡大と人員増加に伴い、2023年4月に日本オフィスを移転した。



新オフィス（Figma Japan）

米国サンフランシスコ発ブラウザベースのデザインプラットフォームで、チームによるブレインストーミング、デザイン、デジタル製品の構築を行う Figma 社は、2022年1月にアジアで初の拠点となる日本支社を開設。その後7月には英語以外の初めての言語として「Figma」日本語版が発表されるなどの後押しもあり、Figma Japan は日本のマーケットで飛躍的に存在感を増しているという。

Figma および「FigJam」は楽天や Yahoo! Japan、LINE、富士通、リクルート、Uzabase などの日本を代表する大手企業ですでに利用されており、2022年11月にはデジタル庁が Figma 上でデザインシステムの公開を開始。Figma は日本の DX において「デザイン」が果たす役割の重要性を示すべく、リーダーシップを担っている。

日本支社開設よりわずか1年での事業拡大に伴い Figma Japan のメンバーは総勢22名にまで増員し、2022年4月にオフィスを増床移転する運びとなった。オフィスとして心地よく、誰にとってもアクセスしやすい環境を考え、セントラルなエリアである丸の内を選定した。新オフィスは日本および海外のクライアントやコミュニティが集まる HUB となり、Figma ブラ

ンドを発信する拠点としての役割を果たす。

Figma はオンラインツールだが、組織としてはメンバー、コミュニティ、そしてクライアントとの方々とのオフラインのコミュニケーションを大事に考えている。



エントランスのデザインパネル (Figma Japan)

オールハンズや社内全メンバーでランチもできる「オープンスペース」、本社のブランディングチームが制作した Figma らしい遊び心が溢れるデザインである「エントランスのデザインパネル」、だれがどこに座ってもよい「フリーアドレス」、日本オリジナルの雰囲気を出し出す打ち合わせスペース「提灯エリア」、1人用や2人用のブース「会議室」など、Figma らしく、自分たちでレイアウト、デザインしたのが新しいオフィスの特徴。また働きやすさを考え、フリーアドレスでは自由に移動がしやすい可動式キャビネットや、全て昇降デスクを採用している。

■ アドバンスト・メディア：「AmiVoice Cloud Platform」の音声認識 API がリコーの Web 会議デバイスを利用した議事録作成支援サービスと連携

(4月26日)

株式会社アドバンスト・メディア (<https://www.advanced-media.co.jp/>) (東京都豊島区) は、音声認識を中心とした音声関連技術を提供する開発者向けボイステックプラットフォーム

「AmiVoice Cloud Platform」にて提供している音声認識 API「AmiVoice API」と、株式会社リコー (<https://www.ricoh.co.jp/service/meeting-360>) (東京都大田区) が提供する 360° カメラ搭載一体型マイクスピーカー「RICOH Meeting 360 V1」を活用した議事録作成支援サービス「RICOH Meeting 360 Add-on Service for カンタン議事録」が連携したと発表。会議終了後に、録画データから音声抽出、音声ファイルをクラウドにアップロードし、AmiVoice API が自動テキスト化を行う。



会議映像、PC 画面、会話内容を一元管理 (アドバンスト・メディア)

AmiVoice API は、「えっと」「そのー」「あのー」などのフィラー（言い淀み）を自動削除するため、テキスト化された文面が読みやすく、認識結果を修正する手間を軽減し、RICOH Meeting 360 Add-on Service for カンタン議事録の利用者から好評を得ている。

また、他社のエンジンと比較した際の日本語の認識精度の高さ、価格帯、使いやすさも今回の連携において重要な評価ポイントとなったという。単語登録機能を活用することで、専門用語や社内用語のほか、企業名、製品名などの固有名詞も高精度に認識することが可能となっている。

リコーとしては、サービス開始までに複数の音声認識エンジンの比較・評価を行い、RICOH Meeting 360 V1 で録音した音声と組み合わせた認識精度の高さや

機能面から AmiVoice Cloud Platform を日本向けリリースのエンジンとして今回採用したという。

※RICOH Meeting 360 V1 発売 (2022年6月30日号掲載)

※RICOH Meeting 360 Add-on Service for カンタン議事録 発表 (2023年3月15日号掲載)

ビジネス動向-海外

■Zoom 社：従業員向けのコミュニケーション&エンゲージメントプラットフォームを提供する Workvivo 社の買収を発表

(4月14日)

Zoom Video Communications Inc. (米国・カリフォルニア州) は、従業員向けのコミュニケーション&エンゲージメントプラットフォーム「Workvivo」を提供する Workvivo Ltd. (アイルランド・コーク市) を買収すると発表。買収金額等は非公開。

Workvivo 社は、同社ウェブサイトの情報によると、2017年にアイルランドで設立。これまでに資金調達シリーズ B まで実施し、総額 38 万ドルとなる。その中には、2019年にエンジェルラウンドで Zoom 社 CEO Eric Yuan 氏の出資もある。

Workvivo は、ニュースフィード、チャット、グループ、投票、アンケートなどの機能によって、従業員間で情報を共有し、お互い関与し、つながりを維持するための、コミュニケーションやエンゲージメントツール、そしてソーシャルネット、従業員アプリといった仕組みを提供している。

買収の手続きは、Zoom 社決算期ベースの 2024 年度第一四半期 (※補足：2023 年 4 月末のこと。ちなみに 2023 年度第 4 四半期は 2023 年 1 月末。) に完了する予定。取引完了後、Zoom 社は Workvivo の機能を自社のプラットフォームに組み込む。また

Workvivo 社の創設者である John Goulding 氏と Joe Lennon 氏、Workvivo チーム全体が従業員エクスペリエンスのイノベーション戦略の推進に貢献するという。

導入利用動向-国内

■ギンガシステム：テレビ窓口システム「テレ窓」がオアシスパークの園内リモートインフォメーション窓口システムに採用

(NEWSCAST:4月16日)

ギンガシステム株式会社 (<https://ginga-sys.jp/>) (東京都渋谷区) は、岐阜県最大級の複合型レジャー施設 河川環境楽園 オアシスパーク (<https://www.oasispark.co.jp/>) (岐阜県各務原市) が提供する園内リモートインフォメーション窓口システムに、ギンガシステム製「LoopGate」を活用した遠隔テレビ窓口システム「テレ窓」が採用されたと発表。



テレ窓 窓口側 (ギンガシステム)



窓口側 (ギンガシステム)



職員側（ギンガシステム）

オアシスパークでは、収益事業と公園管理を一体化させた事業の枠組みの構築に注力している。お客様に最大限のエンターテイメントでワクワクを提供し、広大な圏内でも快適に過ごせるよう画期的な業務改善の手段を模索していた。

その中で、従来は限られた時間でしか提供できなかったインフォメーションセンターにおいて、テレビ窓口システムを採用。いつでも総合案内サービスを提供できるようになり、広大な園内において、これまで以上にサービス品質の向上を実現した。

テレ窓は、次のような点で評価されているという。

（1）まるで対面しているような臨場感のあるビデオ通話品質であること。（2）高齢のお客様やパソコンなどのIT機器が苦手な職員等、誰でも使える簡単な操作性であること。（3）ITサービスには珍しく土日祝日もサポートセンターを利用できること。

ギンガシステムでは、今後もお客様のさまざまな事業環境の改善に向けて、Connect it Easy「簡単につながる」をキーワードにお客様のお役に立てるビデオコミュニケーションサービスを提供していくとしている。

テレ窓は、まるで目の前に人がいるように等身大で対応ができるオンライン相談・リモート接客・テレビ窓口システム。対応可能な受付窓口の全国展開や、専門スタッフのオンライン相談対応など、ビジネスの可能性をさらに拡大できるシステム。わかりやすく簡単に使える業務革新ツールとして、働き方改革やコロナ

禍後の業務見直しを目的に、多くの自治体や民間企業に採用されている。

テレ窓を使えばお客様は窓口に来てボタンを押すだけで自動的に接続し職員と話せるため、利用時に難しいことを考える必要がなく、誰でも簡単に利用できるようになっている。外国語対応や手話対応等にも対応しており、来日外国人観光客の増加が予測されるコロナ終息後のこれからの最適な業務革新ツールとしても注目されているという。

セミナー・展示会情報

<国内>

■働き方改革サミット

職場における、AIと人のつながりの交差点を考える

日時：5月30日 11:00~12:30

会場：オンライン

主催：ZVC Japan 株式会社

詳細・申込：

<https://click.zoom.us/work-transformation-summit/jp>

■ブイキューブセミナー情報（5月~6月）

「新しい情報提供の形 メタバース×Web講演会」「2023年最新！見えてきた、WebRTCの課題と対策」「ついにブイキューブでも取り扱い開始！今大注目の『Zoom Phone』入門講座」など

会場：オンライン/オンデマンド、大阪

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■Webex Meetings 関連ウェビナー（5月）

「【利用者向け】今月のWebexアップデート活用方法(43.5)」など

会場：オンライン/オンデマンド（2020年以降録画）

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html

国内その他：<https://cnar.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。
CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（遠隔会議&UC トレンドワッチ）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<https://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999 年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

CNAレポート・ジャパン 2023年4月30日号おわり

ホームページ：<https://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp